

URBAN-REPORT

<http://www.urbankk.co.jp>

発行人 (株)アーバン企画開発 三戸部 啓之

★★ 私のアメリカ滞在記 ★★



今年の夏、アメリカに留学中の息子が住んでいるカルフォルニア州に10日程滞在しました。初めてのアメリカ本土、観光者ではない立場で見てきた事、感心した事、刺激された事が沢山ありました。私は中国の出身で、日本で青春時代を過ごし、今度は世界中の人々が憧れるアメリカへ…。文化や生活習慣等の異同を色々な面からいくつかご紹介します。

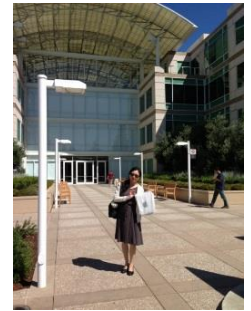
10時間のフライトを経て、17時間の時差もあり大変疲れましたが、サンフランシスコ空港に降り立つと、とても爽やかな気候である事を実感しました。記録的な猛暑日が続いた日本から来た私にとって、何と過ごしやすいところでしょう！冬は温暖で降水量が多く、夏は冷涼で湿度が低く、本当に大自然に恵まれた所です。高速道路をハイスピードで走る車の流れはまるで滝のようで、その台数の多さには目を見張るものがありました。アメリカを旅行する殆どの日本人の感想は、まずスケールが桁外れに大きい事です。確かにカルフォルニア州だけでも面積は日本全土よりも大きいのです。でも出身地の中国と比べると、あまり凄い事だとは感じなかったのが私の正直な気持ちです。

不思議に思ったことは、真昼なのに車のヘッドライトをつけっぱなしで運転し、道路の街路灯も電気が付いていることです。日本では信号待ちのとき、相手に配慮してハイライトを消すのがマナーとされているので、ここでは正反対でした。実は恵まれた気候のおかげで車の外が明る過ぎて眩しく、その状態では相手の車が急に見えなくなることがあるそうです。そのため、ライトを点灯した車の方が確実に対向車から見えるのです。州によっては日中でも必ずライトをつけて走行しないといけないという決まりがあるそうです。多くの車がエンジンをかけると同時にライトが自動的に点灯する仕組みになっています。更にアメリカ人のほとんどが運転中にサングラスをしているため、視界が暗く相手の車がよく見えないことも、ライトを点灯する理由のひとつです。アメリカ本土の中でも面積が膨大なカルフォルニア州、車は生活の必需品で、安全のためにライト点灯は不可欠だと理解できました。



今回は息子の先生宅にホームステイしました。世界的に大変著名なアップル、グーグル、フェイスブック、ツイッターといった企業の本社が集中するシリコンバレーという所で、スタンフォード大学迄徒歩10分弱で行ける場所です。高級住宅街なので、治安が良く、夜道を女性一人で歩いても心配がありません。町を散策したところ、自転車に乗っている人をよく見かけます。アメリカでは自転車は移動手段ではなく、スポーツとして楽しんでいるとの事です。道路は自動車、バイクレーン(自転車専用車線)、歩行者用と分かれています。自転車は競輪用みたいなもので、Bike または Bicycle といいます。日本で言うママチャリはありません。バスには自転車を無料で乗せることもできます。又、時間と関係なく、街のあちらこちらにランニングやジョギングをする人の姿が見られます。犬と一緒に走る人が多く、なんとベビーカーに赤ちゃんを載せて押しながら走るママも発見しました。失礼のないように、かなり通り過ぎてから写真を撮りましたが、あまりに人が小さ過ぎ画像上確認できないので、インターネットから一枚の絵を見つけてイメージとして掲載しました。息子にプッシュされて、私もサンフランシスコの世界最大級の吊り橋、ゴールデンゲートブリッジを通るサイクリングにチャレンジしました。橋の上でも Bicycle の後ろにベビーカーを繋げて走っていたイクメンと出会いました。カルチャーショックでかなりびっくりしました！！私は、普段全く運動しない方なので、体力的に少しきつかったですが、かなりエキサイティングで爽快感を味わえました。皆さんも機会があれば、是非やってみてください。

数年前、アメリカから輸入した牛肉等に BSE(牛海綿状脳症)の発生が報告されて、日本は直ちに輸入を停止し、輸入再開の条件として全頭検査を要請するニュースがテレビでよく放送され、未だに記憶に残っています。アメリカ人はファーストフードばかり食べているイメージですが、その真逆でとても健康オタクな人も多いのです。私が見たアメリカのスーパーは、いろいろとありますが、日本に比べるとオーガニック(有機栽培)に特化したスーパーが数多くあります。オーガニック食品価格は非オーガニック食品より少し高いですが、食物の安全性を気にする消費者が急速に増えています。息子はアメリカに行ったばかりの時、それがよく分からなかったようで、日本にいる感覚で、学校の近くのスーパーで見かけは立派で、しかも価額の安いオーガニックではない果物や野菜を買っていましたが、味もかなりまずい！とのことで、今はオーガニックの物しか買わないように気を付けているそうです。食材だけではなくコスメもオーガニックなものが主流で、自然にも環境にもやさしいナチュラルなコスメが数多く売られています。



アッフェル本社前

スポーツや健康食品、今現地で一番熱いのは iPS 細胞や遺伝子治療等です。昨年ノーベル生理学・医学賞が、生物のあらゆる細胞に成長できて再生医療の実現につながる iPS 細胞を初めて作製した京都大学教授の山中伸弥さんに贈られました。今年、米女優アンジェリーナ・ジョリーさんは乳がんのリスクを高める遺伝子変異が見つかったため予防措置として両乳房の切除手術を受けました。あまりに専門的な内容なので、完全素人の私はよく分かりません。現在、日本人平均寿命は常に世界の上位にランキングされていますが、医療の進歩に伴って、これから先、人類はいったい何歳まで生きられるでしょう。



ハリウッド
&
ハイランドセンター

賃貸管理会社に勤めているので、アメリカの賃貸事情については、当然気になります。以前アーバンレポートでもアメリカ視察レポートが度々登場していましたが、ここで簡単にレポートします。ひとことと言えば、日本よりかなり引越ししやすいです。息子は既に何回も引越しました。日本では最寄り駅までの近さが部屋探しの重要なポイントですが、アメリカではエリアが重要なポイントです。エリアによってかなりの差があり、街の雰囲気や治安の相違が家賃に反映されます。法律も契約も州によって異なってきます。まず礼金がない事、最近弊社でも新築物件を除いて、礼金がない物件が増えています。仲介手数料もありません。敷金(デポジット)は日本と同じくあります。そのため、賃貸住民の出入りがかなり激しいです。不動産会社は売買が主な仕事で、日本のように店舗を設置して部屋探しのお客が来るのを待っている事はありません。賃貸は家主もしくは管理会社が空室情報をすべてウェブで広告する営業スタイルです。契約時、一般の契約者はソーシャルセキュリティーナンバー(社会保障番号)を提出しなければなりません。それを使って簡単にバックグラウンド(金銭的信用度)を調査出来ます。例えば、過去に家賃滞納や強制退去になったことがないか、借金が多すぎないか、犯罪歴がないかなどをチェックできます。ソーシャルセキュリティーナンバーのない留学生の場合は親の銀行残高証明が必要です。日本では、個人情報保護法ができてから過剰に保護されているようですが、個人主義先進国のアメリカでは、その辺の境界と法益が明確になっている点が強く印象に残りました。路上駐車できる場所も多く、駐車場の賃貸はあまりないようです。又、最近日本ではルームシェアが増えています。アメリカの都市部、特にシリコンバレー地域は地価が高騰している為、社会人でもルームシェアが主流になっています。留学生の場合はホームステイの利用もよくあります。

以上、10 日間のアメリカ滞在で体験したことをレポートさせていただきました。最後にひとこと、学生のお子様をお持ちの方々には、ぜひ異文化に触れられる機会を与えてあげることをお勧めします。グローバルな世界を自分の肌で感じる事がこれからの成長に必ず役立つものと確信します。